

令和4年度 学校評価 中央小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	教育目標『人とのつながりを活かし、自ら可能性を広げる児童の育成』 ～ 自律 × 創造 × つながり力 ～ ・自律する子：自分で考え、判断・自己決定し、行動できる子 ・創造する子：自分なりの考えをもとに、新しい考えを創り出す子 ・つながれる子：互いの良さを認め合い、関わりの中で学べる子
本年度の重点目標	職員も児童も地域・保護者も学びが楽しいと実感する学校づくり ○仕事を楽しむ職員室 ・「協働」「創造」「喜び」を大切にされた職員組織 ・効果的な時間の使い方の考察 ○学習を楽しむ教室 ・「学校が楽しい」「授業がおもしろい」と言える児童の増加 ・自分の良さが認められる教室の実現 ○子育て・教育を楽しむ家庭と地域 ・学校に興味を持ち、参画する地域住民の増加 ・地域行事との積極的な連携

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。 ・コミュニティ・スクールや地域人材の活用等、地域と協力しながら教育活動を行っている。	B	メールやHP等を活用して、行事や普段の学習、生活の様子が伝わるように画像やコメントを入れて情報発信している。しかし、保護者はより多くの情報発信を望んでいるため、可能な範囲で情報発信の頻度を上げていく必要がある。また、保護者・地域の方が来校できる機会を今後も設けていく。 地域人材の活用については、総合的な学習の時間を中心として、地域の方や地域の施設の方にゲストティーチャーとして来ていただき学ぶ機会を作ってきた。また、コミスクの方には大雪での休校明けの際に登校の支援をしていただいたり、今年度よりプール掃除をお世話になったり、地域の方と連携しながら教育活動を行うことができています。
		・「人・物・時間」を大切にし、家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。 ・感染について正しく理解し、感染予防に努める子どもを育てる。	B	毎月「人・物・時間」の中から一つを生活目標にして取り組み、学校生活をより良くしようという児童の意識が高まっている。挨拶も月目標を決めて取り組んだが、よくできていると答えた児童は85%いたが保護者からは65%であった。挨拶が地域や家庭で積極的にできていない実態があると思われる。また、学校でも挨拶を返さない児童の姿が見られることがある。今後は新しい取り組み方を考えたり保護者にも啓発を行ったりしてPTA・家庭と連携して挨拶できる子どもの育成に取り組んでいきたい。感染に関する指導は学校の様々な場面で行っており、おおむね感染予防を意識して生活できている。引き続き必要に応じて啓発を行いながら指導を継続していきたい。

課題教育	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学習や家庭学習に、自己決定・協働・振り返りの場を位置付ける。 ・学習に向かう姿勢を高めたり思考を深めたりするために、個や集団に応じた手立てを工夫する。 ・多様な学びの姿を見とるために、学習評価を充実させる。 	<p>B</p> <p>年間を通した6回の授業研究により、児童の実態に応じた自己決定・協働・振り返りの効果的な在り方について研鑽を積んだ。特に自己決定については、学ぶ方法や考える題材を児童が自分で決める機会を設けることで、意欲的に学ぼうとする姿が見られた。</p> <p>しかし、クラスの実態や教科の特性によって取組内容に幅があったため、全校で統一した方向性や指導の一貫性を見出すことは難しかった。丹波市学力調査の結果も、全体的に丹波市平均を下回っている。どんな力がついたのかをみとり、学力差に応じた具体的な手立てにつなげるための学習評価についても、更なる研修が必要である。</p> <p>認知的学力と非認知的能力を両輪とした「自律的に学ぶ姿」をどう目指していくのか、今後も全職員で目指す子ども像を共有し、全校的・系統的な取組へと発展させていきたい。</p>
------	------	--	---

3 学校関係者評価

- ・複数学年・複数担任制のメリットや成果が保護者、地域に十分周知するようにしてほしい。
- ・地域住民も様々な部分で学校支援を行っており、評価できる。
- ・学校を開くことにより、不審者の侵入など危険な部分もある。開く意識とともに、危険にも備える意識を持って取り組んでほしい。
- ・子どもの意識、行動を変えるのは、周囲の大人である。先生、地域住民の姿を子どもは見ているので、模範となる行動を心がけたい。
- ・子どもに高度なものを求めすぎている部分もあるのではないかと。発達年齢を考えると、子ども達はよくやっている。
- ・「わかる、できることが増えた」と回答した子が1学期に比べて減っている。教科担任制、複数担任制との関係も検証してもらいたい。しかし、昨年度より増加していることもあり、概ね成果としてとらえられる。
- ・本来の子どもらしさを大切にす意味でも、体力向上のためにも、『ムキムキタイム』の充実を図ってほしい。
- ・概ねいずれの観点も問題なく、学校が運営されている。今年度の経営方針をもとに、来年度も引き続き、子どものために力を発揮してもらいたい。

4 次年度の改善の方向性

取り組んでいる様々な教育活動については評価をいただいたため、引き続き円滑に実施するとともに、配布物、ホームページを使って、課題を踏まえた成果を保護者、地域住民に伝えられるようにしていきたい。また、挨拶を通して人とつながる力が低下している状態を改善できるよう、保護者、地域と連携した取り組みを推進していく。さらに、確かな学力が身に付けられるよう、授業改善を図っていく校内研修を充実させていく。

令和5年3月13日
 学校名 丹波市立中央小学校
 校長名 西田 隆之